



# はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

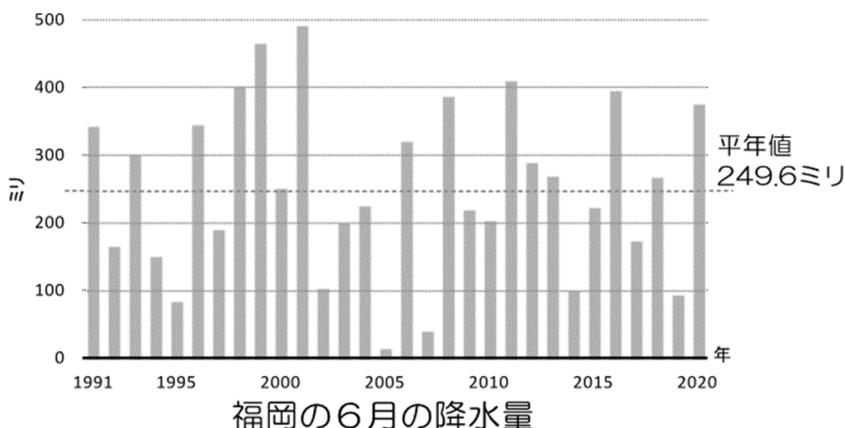
今月の素朴な疑問

## 雨量が平年より多いと言ったときの「平年」とは何ですか？

平年値のことです。西暦年の1の位が1の年から続く30年間の平均値を平年値といい、10年ごとに更新します。今年が平年値更新の年に当たり、1991年から2020年までの30年から算出した平年値が5月19日から使われています。平年値は、その時々気象(気温、降水量など)や天候(冷夏、暖冬など)を評価する基準として利用されるとともに、その地点の気候を表す値としても使われます。

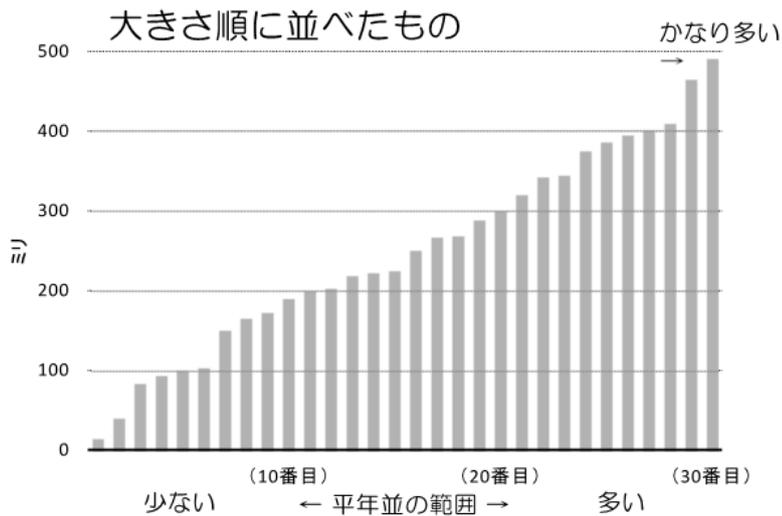
今年の九州北部地方(山口県を含む)は、5月15日に梅雨入りが発表されました。平年より20日早い梅雨入りとなりました。年間でも大雨や集中豪雨による災害が心配される時期です。そして警報が発表されるような大雨になると「降り始めからの雨量が平年の6月の雨量を超えている所があります」などと報道されることがあります。今回はこの「平年」について説明したいと思います。

平年とは平年値のことです。西暦年の1の位が1の年から続く30年間の平均値を平年値といいます。雨量が平年より多いなどというときには、この「平年値」を基準として、これより多いのか少ないのかを言っているのです。たとえば福岡管区気象台で観測した6月の降水量は、過去30年間について30個の値があるわけですが、



これを平均したものが福岡の「6月の降水量」の平年値となります。平年値を作成する期間は、世界気象機関(WMO)の規則に定められており、日本では1921年から1950年を最初として、以後10年ごとに平年値を作成しています。

さて、雨量が平年より「多い」とか「かなり多い」などという表現をしますが、これも基準があり、この範囲に入るかどうかで使い分けています。ここでも福岡の6月の降水量を例にとると、30個の値を大きさの順に並べて、10個ごとの3つのグルー



ブに分けたとき、真ん中の10個の範囲内であれば「平年並み」、大きいほうの10個の範囲内であれば「平年より多い」などと言うのです。範囲の境目になる値、たとえば「平年並み」と「多い」の境目は、20番目と21番目の値を平均した値になります。同様に「かなり多い」というのは、大きい10個のうちでも、最も大きいほうから3番目の値より

大きい場合等に「かなり多い」となります。普段何気なく使っている言葉なのであまり気にしませんが、きちんとした決まりに従って使われています。

ここでは具体例として福岡の6月の降水量を取り上げましたが、平年値を作成する項目には、各月の降水量をはじめ、年間降水量や、月別の平均気温など多くの種類があります。

平年値について知っておくことで「今年は平年よりかなり早い梅雨入り」や「降り始めからの雨量が平年の6月の雨量を超える大雨」といった表現に実感をもっていただけではないでしょうか。

## ご意見をお待ちしています

お気づきの点があればご意見をお寄せください。また、素朴な疑問や質問を募集します。電子メール、Fax、あるいは郵便（はがき、封書）で下の宛先までお送りください。お待ちしております。

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区気象台防災調査課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

Fax：092-725-3163

e-mail：fukuoka\_bousaichousa@met.kishou.go.jp

次回の発行は6月の予定です。